

あ・うん

金剛禪総本山少林寺広報誌

vol.
32

2014 睦月・如月

慶春

明けましておめでとうございます。
地に足をつけた金剛禪運動を展開し、
社会の指導者として、天駆けるが如くの年といたしましょう。

金剛禪総本山少林寺代表 浦田武尚

座談会

金剛禪の中長期展望を語る



金剛禪の中長期展望を語る

金剛禪教団は、開祖宗道臣の志「人づくりによる国づくり」を受け継ぎ、人々の心の改造による平和で豊かな社会（理想境）を実現すべく、現代社会の中で必要とされるべき運動を展開することを基本姿勢としている。新春号特集では、少林寺拳法第二世師家、金剛禪総本山少林寺代表、宗務局長、東京別院別院長が語り合い、金剛禪の独自性を生かし、一層の充実を図るための中長期展望を確認した。

原点は道院にある

宗務局長 組織機構改革実行から3年目になる今年度は、改革の集大成の年となります。本山では、2012年9月に基本計画として5本の柱（左ページ図）を策定し、それに基づいて具体的な事業を展開してまいりました。5本の柱とは、「教区」「道院」「道院長」「教化育成」「本山」です。重要なことは、それぞれの柱が相互に関連しながら遂行されるよう働きかけていくことだと考えており、中でもこの時期、道院活動の充実、とりわけ質の充実が求められています。

代表 そうですね。開祖がなぜ道院にこだわったのかというと、心から信頼できる人間関係づくりに重きを置いていたからです。広い体育館のような場所で汗を流してそれだけで

終わりでは、本当の仲間づくりは難しいでしょうね。それ以外の場面が重要なのです。私は汗を流した後、皆でいろんな話をする時間が楽しかったです。膝を突き合わせ時間を気にせず話す中で、日常の出来事から町づくりに話が発展し、実際にそこで練った施策を行動に移したこともあります。

社会で活躍している拳士には、自分の原点は道院にあるとおっしゃる方が多くいます。原点を持つているというのはとても幸せなことだと思います。そのためにもやはり道院という場は必要なのです。

師家 先日、京都で大学の周年行事に参加してきましたが、体育会OBの集まりという雰囲気ではなく、とても温かなファミリーのような独特の雰囲気印象的でした。なぜだろうと思ったら、皆さん、京都別院



金剛禪総本山少林寺
代表 浦田 武尚



少林寺拳法 第二世師家
宗 由貴



金剛禪総本山少林寺
東京別院別院長 大澤 隆



金剛禪総本山少林寺
宗務局長 中川 英昭

のです。まるで家族のようで、すごくいい雰囲気でした。改めて道院のよさを感じました。

練習後でも、この時間だったらまだ誰かいるかな、先生いるかなと思っただけで道院で、その経験が大きく影響すると思います。やはりスタートを間違えてはいけません。

2013年11月28日
東京別院にて
担当／山下真由美

【基本計画】5本の柱

将来像

自己の可能性を信じ、仲間とともにダーマ信仰を確立し、老若男女を問わず、広く地域と密着したコミュニティを有し、人々の生活や将来に役立つ実践活動を推進し、皆の喜びを自分の喜びとして感じられる人の輪(和)が広がる。

金剛禅運動の舵取り「本山」

信頼できる本山を創る

人づくりの巧妙で緻密なシステム「教化成成」

金剛禅のあり方を生かした教育システムの開発

布教と人づくりの要「道院長」

志を立て、自らが率先して学び、実践していくリーダーを増やす

布教と人づくりの拠点「道院」

広く地域と密着したコミュニティとしての金剛禅ならではの活動

布教と人づくりの地盤「教区」

困難は助け合い、よいことは学び合い、喜びを分かち合える教区活動

専有道場も広げればよいというわけではないように思います。むしろ道院は狭い方がいいのでは。

別院長 家族みたいにつきあえる距離がいいんですね。狭いと誰が来たのかすぐ分かりますし。道院は拳士もその家族も自由に出入りできます。まさに親戚や親子、兄弟姉妹のようにつきあっていたら、塾に通おうが部活があるうが、道院に来るの

ではないでしょうか。それが道院のよさなのかなと思います。

代表 それと雰囲気も重要ですね。現在、旧道場と記念館(5畳半道場)の修復整備事業を計画しています。改修しようと考えたのは、そこに人を薫習できて、感動を与えられる雰囲気があるからです。開祖は5畳半道場からこの道の布教を始めました。原点ともいえる場を残し、伝え

ていく必要を感じています。

師家 実はあの5畳半は、家の中で日当りもよくいちばんいい場所なんです。生活空間の方がむしろ暗い。旧道場の祭壇の場所も考えられていて、明かり取りからの光でとても自然な温かみを感じられる場になっていったんです。

宗務局長 そのことから、開祖がいかに道院や場の大切さにこだわっ

ていたかが感じられますね。

協力して指導者育成を

宗務局長 基本計画に則^{のぞ}って、道院活動の充実のためにも教区活動を活性化させ、後継者育成や道院新設促進といった支援事業を実施してきました。しかし、まだ教区制の意義の浸透と負担感払拭^{ふつしょく}の施策が不十分であるのが現状です。

代表 1道院で難しいことは小教区で助け合い、力を合わせることが必要です。開祖の「正直者がばかをみない社会を私と一緒につくりたいか」という思いが道院長になれば、同志意識で助け合う発想が出てくるはず。開祖は一匹オオカミではなく、結束できるリーダーの集団をつくりたかったのですから。

別院長 武道団体的に考えると、道場主の集まりを思い浮かべますが、開祖がつくりたかったのはもともと家族的なつながりです。別院としても、関東以北の総代たちと協力して、各地に応援に出かけたり、反対に協力して行事を開催することができるとは考えています。各地の道院の発展と布教活動に協力していきたいと思っています。

師家 その意味でも、教区長の役割

- ・教区(都道府県)活動の活性化事業
- ・小教区活動の活性化事業
- ・道院の活性化事業
- ・道院増加促進事業
- ・道院長への支援強化事業
- ・道院長の認定事業
- ・道院長の評価制度の再編事業
- ・道院長の育成事業
- ・金剛禅としての修行体系整備事業
- ・布教活動への支援強化事業
- ・人材育成、有機的な組織活性化事業
- ・財政基盤充実事業
- ・組織活動を支えるシステム構築事業
- ・積極的な広報・渉外活動事業
- ・危機管理体制整備事業



は更に大きくなると思います。

代表 そうですね。そして、教区長はじめ皆さんには、ぜひ後継者育成に力を注いでいただきたいと思います。指導者は、後継者をつくって初めて本物です。見聞を広める機会をつくるなど、小教区で協力して、後進を物心両面で支援し育てていただきたいと思います。

師家 私は道院長には魅力が必要だと思うのです。一緒にいたいとか話を聞いてみたいと思わせる、人を引き付ける何か。自信があつて、前向きで生き生きとしている人の周りには人が集まってくるものね。

宗務局長 宗務局としても道院長研修会そのものの中身を見直し、指導者の質の向上につながる仕組みづくりを考えていきたいと思っています。

実践あつてこそその金剛禅

代表 私は来年度の方針として、布教月間を設けてはと考えています。例えば、内外で講演活動をするとか、発表会とか体験教室でもいいと思うんです。何も行事を増やすというのではなくて、同志意識を高める仕組みとして、各地で知恵を絞riegung工夫して布教活動に取り組む月にしてはということですね。

本山と地方が一体となって、地域ぐるみで課題に取り組む

師家 いいですね。私はまず達磨祭を一新すべきだと思っていました。

以前は中心になるテーマがあつて、参加者全員が一本筋の通つたつながりを感じられる達磨祭でしたが、今は法要と縁日になってしまったと感じていました。以前のような形だと一般の方も入りやすいと思います。

代表 私もそう思います。従来の形に凝り固まるのではなく、参加者の気持ちが一つになり、元氣になれる、そうした仕掛けづくりをしたいと思っています。個人的には阿羅漢あらはんの集いとかやりたいですね。

宗務局長 布教月間での試みが、金剛禅の大会に発展していくことも考えられますね。印象に残っているのが、まだ教区制が整備される以前、2001年に石川県が行った全国初の金剛禅大会（シンポジウム）です。そうした金剛禅ならではの布教活動が活発になったらと思います。

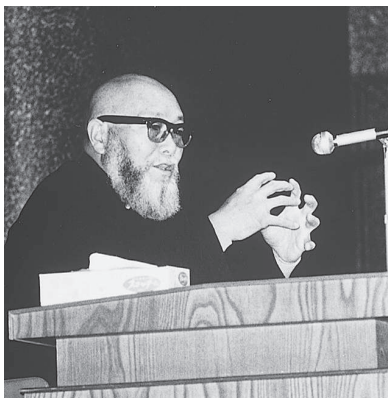
別院長 別院としても、東京の拠点として発信できるものをつくってきたいと考えています。現在、毎月300人が利用し、地元商店街の方

たちの出入りもあります。本山のようないくつではないため、ちょうど道院くらいの規模で、より身近な金剛禅運動が展開できると考えています。

師家 今こそ宗教が頑張らなくてはと思います。セクハラやパワハラなど、起こった現象にだけ反応して、国は法律で制限をかけますが、見直すべきはその根本にある、家庭や学校、社会という教育環境だと思うのです。自分の生き方に自信を持ち、半ばは自己の、半ばは他人ひとの幸せを考えて行動できる人を育てる、宗教教育が必要とされているのです。

このところ、金剛禅に専門的な勉強をするイメージが強くなっているように感じますが、それだけでは本来のあり方ではないはずです。教えは実践しなくては意味がないし、その実践している姿で周りに影響を与えるのが金剛禅だと思っています。

代表 そうですね。開祖が試行錯誤して編み出したこの金剛禅のあり方は本当に素晴らしいと思います。我々は誇りを持って、これからも実践してまいります。



開祖語録 ダイジェスト

1980年2月
受験者に対する法話

ふだん着の 金剛禅

法務部 部長 藤井 省吾

対話する力

相手の話を正しく聞き、当意即妙の答えで応じる会話は心地よく楽しいものです。

そんな対話からよりよいアイデアも生まれるのでしょうか。

しかし実際には、つい自分のペースで会話を進め、話を聞くことをおろそかにしてしまい、不自然な会話になってしまふことがあります。

自分の未熟さを反省しながら、古参の先生から受けたご指導を思い出

します。

「少林寺拳法では、まず相手と息を合わせる大切なんだ。外すのは簡単なんだよ」とのお言葉です。攻守入れ代わり繰り返し返される法形修練では、守りながらも同時に攻める側（攻者）の気持ちの方が分かります。二人で息を合わせて一体となるような動きの中から、五感が澄み、攻者から発せられる微細なシグナルを察知し応じる力が身につきます。

「未発の先」を制することにも通じる深い教えと受け止めています。

「私」という輪郭を薄くしながら相手と一体となる「行」は、想像力や共感といった他者とながら力をも養うのでしょうか。

そういった修練で身につけた力が対話も含めた日常に自然に生きてくることが正しい「行」であることを改めて自覚し、修行に励みます。

くりたい。

友達をつくれる生き方を、ひとつ本気で考えようじゃないか。

今の時代にいちばん欠けてるものは、人間同士のいたわり合い、助け合いですね。要するに、親から離れてる、友達から離れてる、先生から離れてる。

先生とのつながり、少林寺はそれがありますね。今まで以上に子供、後輩とも積極的につきあって、相談相手になってやれるような生き方をしてもらいたい。

このごろの子供が悪くなった原因

を、学校や社会のせいにしてる。確かに小学校、中学校のときから受験地獄はじめ競争ばかりで、友達が敵と見てる。受験のとき友達が病気で休んでくれたら、オレが入れるだろう。いい学校に入りたい、大きな会社就職したい、そのためには友達社に就職したい。結果としてそのように子供たちを追い込んでいるのが、今の学校、社会です。

少林寺は違いますね。友達の手を引く張ったり、友達をしゃくり上げて痛い目をさせて、というのとは違いますね。自分も上手になりたいが、友達も上手になってもらわんと試験に通らない。

友達をつくれる生き方を

花咲じいさんは毎朝掃除をする

春になると、私の家の前の学校の桜がいつもと変わらず咲き誇る。多分、次に来る春もそうに違いないだろう。夜、仕事を終えて、

家に帰って自動車から降りるとき、ふと見とれてしまう。確かに、桜の木の下には、死体とはいわないまでも妖艶なものが埋まつていそうに思える。学校のフェンスから乗り出すように枝を出す桜は、私は好きだ。咲く桜も美しいが、はらはらと小さな花びらを風に乘せて散る桜も好きだ。花びらに埋もれてしまいたいという人の気持ちが分かるような気がする。

でも、それは観^みているだけの私の勝手な感傷で、桜の小さな花びらは、道路を埋めるくらいたくさん落ち、風に舞って辺りに散らばり、ゴミと化す。側溝の蓋を塞ぎ、雨の後では、道路に張り付いて、掃いても簡単には取れない。

そんなことから、辺りの家の人が学校に、桜の木を切れと注文した。

一度も掃除をしたことのないその人は、声を強くして切れと言った。学校は毎日掃除をしますとは言わなかった。話し合いの結果、

根から切れとは言わないが、せめてフェンスからはみ出た部分は切りましょうということになった。

そのとき、今まで一人でいつも掃除をしていた隣のおじいさんは、物静かに、私が掃除をするから切らないでほしいと言った。結局、切れと言った人の家の前の桜の枝は、フェンスからはみ出た箇所だけ切られ、隣と私の家の前の桜はそのままになった。桜の花びらは、フェンスの中からも、外からも風に舞って飛ぶ、切ってくれと言った人の家の前にも、残してくれと言ったおじいさんの家の前にも、そして私の家の前にも。相変わらず、毎朝おじいさんは黙々と掃除をしている。ちり取りと箒^{ほうき}、そして大きなビニールのゴミ袋。小雨の日も。風の日も。

おじいさんは、数年前におばあさんを亡くし、一人で御飯を作り、洗濯をし、布団を干し、ゴミを出している。おじいさんは、公認会計士の仕事を今でも続けている。おじいさんは、少し耳が遠くて、顔の前で挨拶しないと気づかないときがある。

私は、おじいさんに会うと思わず頭を下げ



てしまう。私は、退職して朝の時間ができるようになったら、おじいさんのように、私が守りたいと思う「桜の木」のために、掃除を続けることができるだろうか。黙って、何を言われなくても、誰の手助けがなくても。：陰徳。徳。

道



修行の先にあるもの

山城田辺道院 道院長 富澤伸二

目の前に続くまっすぐ延びた長い道。夕暮れ時には紅に染まる。夕日を背に母と二人でよく自転車に乗る稽古をしていた。デコボコで石ころだらけのその道は、これから続く計り知れない人生の道程を幼い私に静かに教えていた。

元来「修行」とは、雑念なく打算なく幼心のように遠い遥かな理想を見据え一心に「今」と向き合うことだと私は考える。そして、私たちが金剛禅門信徒にとつての修行の礎は、少林寺拳法の修練と金剛禅の修学を内なるものとして鍛え極めることにあり、その内なるもの（自己）と、自己を取り巻く社会との関係（他者）の中で、自己を姿あるものにするのが修行の第一目的である。

およそ世の人は、誰もが何かの形で道を模索し行脚しているが、幸い私たちは「少林寺拳法」という磁石に引き寄せられ、正しい生き方や人としてのあり方を学ぶ機会を得て、そのことに感謝し人生の灯として歩むことができる。そうであるならば、開祖の教えを更に多くの人々に伝え広め、共に歩むことすばらしさを共有しようとするのはごく自然のことである。「お父さん、帰りに風邪薬を

買ってきてください……」「分かった、でも、今日は参座日だから、遅くなるよ」。こんな日常の中に金剛禅の修行はある。布教者も、修行者も、まして、在家信者としてはむしろ当たり前なことだ。開祖も、日々私たちを育み育ててくれる大いなる力の存在を認識し、他とともに生きることを喜びとするように語られた。

現代は、遙か太古の昔、釈尊が悟り達磨が座した日々とは大きく環境が変わり、人口も増え、生きるための雑多な仕事も格段と増えている。そのような現代社会にあつて、釈尊の正しい教えを生活の中に生かし、人としての生き方を説いているのが金剛禅である。

金剛禅における世界の捉え方とその特徴は、仏教でいうところのいわゆる「空」の考え方に近いが、物質や意識双方をしっかりとした実体と捉え現実逃避を制限しており、また、この世界を自分の意識の中で認識し、目の前の世界が意識の産物であるという唯心論とも違う。無手の格闘術（拳法）を主行とし、まずは体術の習得を目指すとはいつても唯物論的立場を取るものでもない。拳禅一如が修行の特徴でもあるがデカルトのいう二元論と

も大きく異なる。

私たちの信仰の対象である「ダーマ」にしても、キリスト教のいうところの絶対神でもなければ、創造主でもなく、その基本的な方向性とその特質は、物事が生成育成することにある、全てのものは「法」によって移ろい行くという現象と関係性の中で、あえて「自己」を前面に出し、理想社会の実現を目指すところに開祖の教えの特徴がある。また、「調和」は同時に冷酷さも兼ね備え、個を潰すこともある。私たちのいう「調和」は物理的「予定調和」ではなく、互いが生きる人的調和であることを心しなければならぬ。

時が後戻りできないように世界は諸行無常であり、とどまることを許されず、流動的で生成的な真理の中で、私たちは正の可能性を見いだし、それを信じて舵を取らざるをえない。ここに必然と正しい信仰と信仰心が芽生える。この世に生きながらこの世を見つめ、この世をすばらしいものになろうと努力することが「生きる」ことであり、生き続けることが「命」の本質でもある。私たちの修行の先には、一輪の花が静かに咲いているぐらいがちょうどよいのかもしれない。

ダイジェスト

×



志を つなぐ

vol.17

まつだ きんいちろう
松田 欣一郎 148期生
大導師大範士八段

何事も原点に帰る、
みんなが幸せになればいいんですよ

何事も迷ったときは原点に帰ること、すなわち基本に戻ることと考えて実践してまいりました。そして、「Why? What to do? How to do? For what?」なぜ? 何をなすべきか? いかにすべきか? その理由は? を勘案して、これを基準にして実行してまいりました。その根本には、開祖の「逃げるな、忘れるな、楽しめ」と、山本五十六の*言葉が

ありました。

教える立場になって、技だけ一生懸命ではだめだと気付きました。開祖が何を考えたのか、金剛禅の原点に帰らなくては。半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを、本当にそのとおりだと思います。みんなが幸せになればいいんですよ。技もそう。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼東京道院(当時)の拳士たちと開祖



*やってみて、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ。

ダイジェスト

×



道院長 元気の素

vol.17

おおさかひらの
大阪平野道院
かわぞえ こうじ
道院長 川添 浩史(33歳)

「志」から生まれる強固な「縁」、
仲間に関われた心豊かな人生

——将来、道院長を目指す全国の拳士へひと言エールをお願いします。

本気で「志」を持って取り組めば、その分得られるものは計り知れないほど大きなものになります。道院長の「志」が周りに伝わり、それがもとで生まれた「縁」は強固です。私は道院長になったおかげで最高の幹部に出会うことができました。これは最大の自慢です。私が頼りない分、幹

部がしっかりとしてくれているおかげで道院が成り立っています。

ゆっくりでもいい、一歩ずつ進んでいった先にある風景は、必ず皆さんの人生を想像以上に豊かにしてくれます。さあ、多くの仲間とともに「縁」に関われた素晴らしい人生を送りましょう。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



講習会2次

道院の可能性

9月21、22日、本山にて道院幹部を対象とした講習会2次

〈幹部講習会〉が行われ、141人が受講した。テーマは「道院における人づくりの可能性」。

初めに、中川英昭宗務局長が道院幹部の定義を説明し、受講における心構えを説いた。その後、実習、講義、易筋行などの各プログラムへ展開した。

実習では、相対演練の意義をキャッチボールを題材として、人と人とのコミュニケーションの観点から捉え直した。また、コース制の実習を通して社会に目を向けた道院活動の意義を講習した。講義では、浦田武尚代表が「道院の可能性」について講義を行った。また幹部が理解しておくべき「組織機構改革の趣旨」「道院における指導者の留意点」の講義を行った。易筋行では、「動禅としての易筋行」というサブタイトルで講師4人がそれぞれの視点から、単なる技術修練に留まらない、「行」という視点で、易筋行の中に金剛禅の教えを織り交ぜ講習を行った。

的に意見交換を行って交流を図っていた。今後も本山では、道院活動を活発化させ、日々の活動や実生活を有意義にするための講習会を企画していく。

（富田雅志）

15人の少法師誕生

9月22日、本山にて僧階補任講習（少法師）が開催された。少法師は、布教者としての資格である僧階の中でも、布教者の指導的役割を担う高位な資格である。今回は15人が受講し、少法師の補任を受けた。

講習では、講義だけではなく、自身の布教活動の報告や今後の取り組みについての討議などを通じ、少法師としての使命の認識を強くした。

閉講式にて浦田武尚代表より僧階辞令と綖子が授与され、「私たちの運動は、本場に必要とされています。少法師になられた皆様の布教の姿勢、心構えにかかっているのです、より一層の活躍をお願いしたい」と激励と期待を込めた言葉が贈られた。

以下、受講者からの感想。

「少法師に任ぜられ、その階位の重さ、責任の重要性を改めて認識するとともに、布教の意欲

が高まってきた」「少法師の役割は教団の行く末を左右するとの指導を頂いた。今後更に気を引き締め布教活動に専念するとともに、今後も謙虚に修行を継続いたします」

（小林博紀）

特別講習会

五感で感じる

10月5、6日の2日間、2013年度特別講習会が本山で開催され、40人が受講した。この講習会は10月6日の達磨祭に併せて行われたもので、講習プログラムの一部に達磨祭法要や演武会への参加が含まれる「行事参加型講習会」であった。

「道院行事を五感で感じよう」のテーマの下、金剛禅の代表的な儀式行事の意義や各種の法具類についても講義が行われ、また、易筋行に関しても「五感で感じる」をキーワードに、修練法に関する講習が展開された。

10月6日の達磨祭法要へ参列した受講者は、本山で催される儀式の雰囲気を実際に体で感じていたようである。また、法要後の演武会においても、互いに息を合わせ、五感で感じ合う演武を発表していた。

受講者からは、「改めて儀式の大切さを感じた」「拳士同士の

絆を結ぶのに必要だと思った」「（易筋行では）理屈も大事だが、フィーリングをもっと大事にするのを感じた」など、反応のよい感想を得た。（飯野貴嗣）

※毎年達磨祭行事に併せて開催される「特別講習会」では、興味深いテーマを掲げ、さまざまな視点で講習を行います。皆さんのご受講を心よりお待ちしております。

北海道釧根小教区

小教区内の連携強化と質の向上を図る

10月20日、本山認定の北海道釧根小教区研修会が、北海道厚岸道院専有道場を会場に開催されました。前日には拳士交流会が開催され、稲村徳弥釧根小教区長の乾杯の発声によって、会



が大いに盛り上がり、拳士相互の親睦・交流が深まりました。

当日は、竹田則幸北海道厚岸道院道院長が導師となり、儀式実習を兼ねた合同達磨祭が厳粛に挙行され、僧籍にある者は法衣に輪袈裟を着用し、金剛禅における儀式のあり方や念珠の使い方、献香などの所作について学びました。次いで、竹田北海道地区総代を講師として「僧階講義」と「組織の現状認識」に関する講義へと進み、僧階講義では少導師を対象に「宗教はいかにあるべきか」をテーマに「金剛禅布教者としての自覚と僧階の必要性」についてもお話をされました。また、「組織の現状認識」では、組織機構改革に関連して、道院長とともに道院運営を補佐する立場の幹部拳士や一般拳士にも正しい認識を持つてほしいと講義されました。

研修会の締めくくりとして、加藤忍北海道副教区長を座長とした法座が設けられ、本研修会内容を振り返っての話し合いが行われ、座長の説示のあと、「閉経の偈」を唱えて閉会となりました。研修会参加者からは、受講してよかった、是非継続してほしいとの感想が寄せられました。

（福田文弘）

2013年10月度 認証

●新設
京都松ヶ崎道院 鴻田 健将
阿波市場道院 藤野 起夫
久留米東道院 林 大助

練馬上石神井道院 山口 和彦
●道院長交代
富田林東條道院 北野 隆司
筑前古賀道院 山本 忠生

1・2月の本山行事

1月11日(土) 表彰式、都道府県教区長会議

1月12日(日) 新春法会

1月31日(金)～2月2日(日) 道院長資格認定研修会

2月23日(日) 認証式

僧階昇任者

少法師

■2013年9月22日付

森 久雄(茨城岩井道院)
萩原 俊次(船橋東道院)
鈴木 秀孝(板橋菩提樹道院)
大澤 隆(石神井東道院)
渡辺 孝藏(東京王子道院)
佐名木 修(高津道院)

田中 克成(川崎麻生道院)
島田 和夫(相模大野道院)
近藤 武士(名古屋友愛道院)
大河内 智(津中央道院)
下司 和之(滋賀堅田道院)
水野 高廣(大阪桂道院)
高田 和典(海南黒江道院)
宇都宮 俊二(愛媛宇和道院)

折戸 政和(諫早西道院)

中導師

■2013年8月1日付

増井 友哉(綾瀬深谷道院)

■2013年9月1日付

繁内 一之(茨木西道院)

■2013年10月1日付

原田 雅文(旭川東道院)

下山 真二(東京羽田道院)

外山 雅一(横浜名瀬道院)

岡田 祐治(西宮香栢園道院)

立花 正夫(大久保山手道院)

黒田 靖(岡山真庭道院)

藤井 省吾(本部道院)

■2013年11月1日付

宇都宮 広史(高知安芸道院)

お布施

▷備後新市道院 設立40周年帰山記念 20,000円

▷東京大塚道院 執行 雪江 東京別院達磨祭 3,000円

▷東京大塚道院 100,000円

▷尾道道院 上角 光彦(監事) 林猛彦元道院長法要記念帰山 50,000円

▷豊田末野原道院道院長 服部 俊美 10,000円

▷豊岡道院 帰山 20,000円

達磨祭御祝

医療法人社団昌樹会ウツミ整形外科医院、医療法人社団昌樹会、今治造船株式会社、オークラホテル株式会社、岡山県教区、お好み焼きよこた、お好み焼きわかやま、お食事処まんぷく食堂、小田鋼業株式会社、小畑長生治療院、大西旅館、大倉工業株式会社、大野功統、川西中部道院、

加藤義秋、株式会社STNet、株式会社オザキ、株式会社カナック、株式会社カメイ務商店、株式会社スタート、株式会社ビルド、株式会社一鶴、株式会社琴平グランドホテル、株式会社香川銀行多度津支店、株式会社高松ホットスタンプ、株式会社高松駅弁、株式会社高松三越、株式会社合田工務店、株式会社四電工中讃西営業所、株式会社前川商店、株式会社百十四銀行、株式会社味匠、鎌田智、関西実業株式会社、亀山石油株式会社、香川印刷株式会社、買田屋、ガールスカウト香川第六団、学校法人高松高等予備校、岸本税理士事務所所長、喜田良延、木下敏男、木村義雄、葛上精肉店、近藤典子、公益財団法人松平公益会、小池孝忠、境港道院、山

陽放送株式会社、財団法人多度津町文化体育振興事業団、四国旅客鉄道株式会社、四国旅客鉄道株式会社多度津駅、庄野雅巳、進藤昭次郎、自衛隊香川地方協力本部、善通寺ステーションホテル、高畑産業株式会社、多度津さくら会、多度津商工会議所、多度津町七区自治会、多羅尾尚、田原正晴、中讃ケーブルビジョン株式会社、ツバメ工業株式会社、豊橋岩西道院、東洋防蝕工業有限会社、桃陵クリニック院長、特別養護老人ホーム桃陵苑、中数賀昭子、流山道院、日本総合保険企画株式会社、日本郵便株式会社四国支社、日本郵政株式会社多度津郵便局、萩原妙子、林田石油株式会社、兵庫県教区、平田美智子、平尾吉司郎、富士建設株式会社、プリントネット

ワーク株式会社、ペンションでぐち荘、ホテルサンルート瀬戸大橋、ホテルトヨタ、本多英信、本田演昭、ボーイスカウト仲多度第一団、舞鶴道院、牧野清、宮武八千代、宮野康人、三井住友信託銀行株式会社岡山支店、三宅富男、民宿ちぐさ、民宿トキワ、民宿浦島屋、民宿細川、村井智子、村野巨樹、山崎隆尉、山崎花店、湯元ことひら温泉琴参閣、有限会社白光舎、有限会社華や商事、有限会社溝渕造園、有限会社香川建築設計事務所、有限会社西山印刷所、有限会社多度津タクシー、有限会社長尾酒店、有限会社萩原総業、ロτζ寿

僧階の補任要件について

僧階は、金剛禪を正しく伝道し、また「行」としての少林寺拳法を正しく指導していくことを目的に、金剛禪総本山少林寺に定められた布教者の資格です。

僧籍に編入し、更に上位資格の僧階補任を受けるためには、レポートの作成とともに、それぞれの資格で満たすべき要件があります。いま一度、各要件をご確認いただき、計画的な僧階への取り組みをお願いいたします。

金剛禪の教えを深く学ぶことによる気づきと、日常実践を通じての体感を、自己成長への楽しみとして取り組んでみませんか。少導師の補任を希望される方は、道院長にお申し出ください。

	少導師	権中導師	中導師	権大導師	大導師	少法師
法階	少拳士以上		中拳士以上		正拳士以上	准範士以上
年齢	17歳以上		22歳以上		28歳以上	38歳以上
活動実績	道院参座	2か年以上	2か年以上	3か年以上	3か年以上	5か年以上
レポート		5題	10題	7題	7題	7題
僧階補任講習			受講必須		受講必須	受講必須
年間の補任回数	年3回 4・8・12月	年3回 4・8・12月	年2回 7・11月	年3回 4・8・12月	年2回 7・11月	年1回 9月

※それぞれの資格において定められた要件(法階・年齢・活動実績)を満たし、履修科目(レポート)を完了すると上位昇任への案内メールが送られます。
※中導師・大導師・少法師については、全ての要件を満たした後、総仕上げとして僧階補任講習の受講が必須です。少法師の補任は道院長のみです。
※各資格の補任日は、少導師・権中導師・権大導師は各補任月の1日。中導師・大導師・少法師は僧階補任講習の開催日です。

編集後記▶「謹賀新春」。ダーマのつくり出す力は果てしなく大きい。▶日本の森林面積は約2500万ha。そのうち半分が天然林、国土面積に占める森林面積は約66%、樹木たちは自立し国土を守る。水、空気を澄ませ、フィトンチッドを発生し、葉や実を育て生きている。この樹木たちを底から支える樹根の力は大きく強^{きょうじん}靱である。▶私たち金剛禪門信徒も、人としての役割を果たさなくてはならない。「自己確立」「自他共楽」の根(心)をしっかりとし、各地で金剛禪運動を展開する一年となるよう願う。復興支援活動、社会貢献活動とともに。(お)

表紙▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禪総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禪総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 32
金剛禪総本山少林寺広報誌 2014 睦月・如月

2014年1月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禪総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤 隆

企画・編集：金剛禪総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

広報誌『あ・うん』追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

仙台宮城野道院 高橋 和博

合宿で得られたもの

今年の夏合宿は、県南の蔵王町で1泊2日の行程で開催されました。宿泊先は山間の自然に囲まれた静かな宿で、チェックインを済ませ、ふとロビー内を見渡すと、ガラスの飼育ケースが目につきました。近づいてみると、緑色のやや大きな艶のあるカエルが鎮座していました。主に山間に住む種類のモリアオガエルでしたが、カエルを飼育している宿に一同、驚かされました。

夕食後、バスに乗り込み、ホテル狩り(ホテル観賞)に行きました。観る場所は山間部を流れる沢筋で、拳士たちは目を凝らしながら道に沿って歩き一生懸命に小さな光を探しました。最初、周りは漆黒の闇に覆われていましたが、徐々に目が慣れてきて、ほのかに放つホテルの光を発見。ホテルはゆつくりと点滅を繰り返し、沢に沿ってふわりふわりと上下に舞っていました。

宿に戻る途中、車窓より道路を横断するテンを目撃した際には、一同騒然となり、車内は修学旅行のような賑やかな雰囲気になりました。合宿では修練だけでなく、自然と触れ合う貴重な時間を過ごすことができました。同時に驚きや感動を共有することができた仲間があり、それを改めて感じました。そして、ホテルのように僅かな時間しか共有できない出会いもあることを実感。今後も道院の仲間や道院活動を通じて新しい出会いを大切にしながら、修練に励みたいと思いました。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuo Ken, Nidan nuki



宗門の行としての少林寺拳法

りゅうおうけん に だんぬき
龍王拳 二段抜

我の寄抜^{よりぬき}に対し、攻者が妨害せんと、掴^{つか}んでいた手を我の胸元^{ひね}に捻り押し込んだときの抜き方。押し込みをいなしながら体を捻り、肘を相手側に向けて抜く。このとき腕を内側に巻き込み、内腕刀^{ないわんとう}を相手の拇指第一関節^{ぼし}に乗せるようにするとよい。また、上体の捌き^{さば}に足捌きを併用することで、無理なく相手の攻撃をいなすことができる。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：永安正樹 准範士六段 攻者：冨田雅志 大拳士五段